

がん教育通信 No. 1

西小学校 保健室 (R7. 9)

学校からのたより等でお知らせしておりますが、今年度、西小は、文部科学省の「がん教育推進事業」の実践校に指定されました。この「がん教育通信」では、学校での取り組みについてお伝えしたいと思います。

文部科学省は「生涯のうち国民の2人に1人がかかると推測されるがんは重要な課題であり、健康に関する国民の基礎的教養として身につけておくべきもの」として、がんに対する正しい知識、がん患者への理解を通じ、健康と命の大切さに対する認識を深めることを目的に、がん教育を推進しています。

がん教育は、学習指導要領の改正に伴って、小学校では2020年度から全面实施となり、中学校では2021年度から、高等学校では2022年度から「保健」の授業を通して必修化されています。



がん教育は、

- ① 「がんについて正しく理解すること」
- ② 「健康と命の大切さについて考える」ことを目標に行います。



9/12(金)、5,6年生を対象に桐生厚生総合病院 看護師の五十嵐さんと上原さんに来校していただき、「やさしい がんのお話」について講演していただきました。講演後には、児童からたくさんの質問があり、そのひとつひとつに丁寧にお答えいただきながら、「がん」についての理解を深めることができました。(以下は、講話の内容の一部です)



・がんってなあに？

人間の細胞は37兆個の細胞からできていて、毎日、細胞分裂しています。その細胞分裂の際に病気の細胞ができてしまうことがある。人間の体は、病気の細胞が生まれても、元気な細胞にもどしたり、なくしたりして正常に保つしくみがあるが、病気の細胞が排除できない場合、病気の細胞が増え、「がん」になってしまうことがある。

・日本ではどのくらいの人のがんになるの？

日本人が生涯で「がん」と診断される確率は2人に1人と言われている。群馬県では、年間約15000人。50歳前後から「がん」になる人が増える。



・がんになる原因？がんのリスクをへらすためには？

原因はいろいろといわれているが、実は分からないことも多い。望ましい生活習慣により「がん」のリスクを減らすことができる。できることはやってみよう！(たばこを吸わない、お酒を飲み過ぎない、バランスのよい食事、適度な運動、適正体重の維持、ストレス解消など)

・望ましい生活習慣をしていれば、がんにならないの？

望ましい生活習慣を心がけていても「がん」になってしまうことがある。
がん検診を受けて、早く発見して、治療することが大切！みなさんの大切な人に伝えよう！

がんは側にも「うつることのない病気」で早期に発見すれば治すこともできる。

・がんの人が身近にいたら？

がん患者の方は「家族や友人に今までどおり接してほしい」「がんを正しく理解してほしい」と感じている人が多い。がんを正しく理解することで誰もが暮らしやすい社会につながる。

(児童の感想より)

- ・「がん」＝「死んでしまう」ように感じていたので、治せる場合もあることや生活のリズムを整えていれば予防できることを知り、少しほっとした。
- ・がんは予防できると知ったから、生活習慣をよくしようと思った。
- ・子供の今は望ましい生活習慣を送り、大人になっても生活習慣はもちろん「がん検診」を受けて、予防したい。
- ・がんは特別な病気と思っていたが、2人に1人になると聞いて、身近な病気だと感じた。
- ・細胞が毎日増えて、病気の細胞が生まれても、元気な細胞にもどしたり、なくなったりして正常に保つしくみがすごいと思った。
- ・早期発見が大切だと感じた。家族にも「検診した？」と聞いてみようと思った。
- ・「がん」という病気について分からないこともたくさんあることに驚いた。
- ・がん細胞が1～2センチになるまで10～20年かかり、大きくなるまで自覚症状がないことに驚いた。
- ・がんの方が身近にいたときにいつものように明るく優しく寄り添いたい。正しく接してがんの方が暮らしやすい社会にしたい。
- ・私の大切な人にも健康な生活を送ってもらうために学んだことを伝えたい。
- ・一番おどろいたのは、治る確率が思っていたよりも高かったこと。
- ・ストレスもできるだけためないようにしたいと思った。
- ・家族はお酒が好きで、たばこも吸うので注意してほしいと思った。大人も睡眠不足にならないようにしてほしい。
- ・遺伝のことも考えつつ、今からできるがん予防をしようと思った。
- ・今日学んだことを家族にも伝えてみようと思った。
- ・がん細胞は常にできていて、でも運よく消せていて生きていることが分かり、命の大切さを感じた。など

2学期の身体測定の時間の際に1～4年生向けに「がん」についても触れながら、「生活習慣と病気の予防」についてお話ししました。

どうして「がん」になるの？

- ・にんげんのからだは、たくさんの「さいぼう」でできている。
- ・「さいぼう」がふるくなるとあたらしいものにいれかわる。



- ・あたらしくいれかわるときに「がんさいぼう」になってしまうときがある。

でも・・・にんげんのからだは・・・
しゅくりしたり、やっつけたりする
ことができる！

- ・ながい年月をかけて「がん」になる。



どうして「がん」になるの？

「がん」

⇒「せいかつしゅうがん」とかかわりがふかい



「がん」をはやくみつけて
はやくちりょうしよう！

